



ゆづりは

堺市立図書館だより

第12巻 第1号 (通巻43号)
 発行日 平成29年6月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321

堺市立図書館協議会から

「今後の中央図書館のあり方」について〈答申〉 が提出されました

平成29年3月30日(木曜)に、堺市立図書館協議会(常世田良会長・立命館大学文学部教授)から中央図書館長に対し、「今後の中央図書館のあり方」について答申が提出されました。今後、答申を踏まえて将来の構想を取りまとめる予定です。



図書館協議会委員 於：中央図書館集会室

次期の堺市マスタープランや未来をつくる堺教育プランの取組みとしても反映できるよう進め、政令指定都市にふさわしい図書館について検討してまいりたいと考えております。

堺市立図書館協議会とは？

図書館の運営に関して、中央図書館長の諮問[意見を尋ね求めること]に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕について中央図書館長に意見を述べる機関。図書館法、堺市立図書館条例にもとづき、昭和58年から設置。学校教育・社会教育の関係者、家庭教育の向上に役立つ活動を行う方、学識経験者、公募委員など、様々な経歴を持つ9名の委員から構成しています。

諮問から答申に至った経緯

近年、図書館に対する市民の方のご要望や地域の課題は複雑化・多様化しています。これらに対応するため中央図書館は、市民の課題解決を支援し、地域の活性化に貢献する図書館機能の充実が必要となってきました。そこで、中央図書館長の諮問に基づき、「今後の中央図書館のあり方」についてご協議いただいたものです。答申が提出された平成29年3月30日までに、協議会を8回、意見交換会を9回開催しました。議論が重ねられ、今回の答申の提出に至りました。

目次

堺市立図書館協議会から「今後の中央図書館のあり方」について〈答申〉が提出されました … 1

美原町史 第1巻 本文編 索引』ができました! … 2

シリーズ 堺の〇〇 金岡神社… 2

この本で解決! … 3

堺かるた いろはの「み」 … 3

司書のイチ押し! … 4
『Vivian Maier Street photographer』『男子』

堺市立図書館電話番号一覧 … 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



『美原町史 第1巻 本文編 索引』ができました！

このたび、堺図書館サポーター倶楽部会員の協力を得て、『美原町史 第1巻 本文編』（美原町史編纂委員会／編集 美原町／発行 1999年）の索引ができました。

『美原町史 第1巻』に出てくる人名・地名等の固有名詞や、その他用語を採録しました。



利用しやすくなりました！

河内鑄物師や黒姫山古墳、地名の由来など、調べものなどご利用の際は、ぜひご活用ください。

『美原町史』を所蔵している中央図書館、各区域館、一部の分館のカウンター等に設置しています。



地名でもさがせます

本書に関する問い合わせは、美原図書館（電話072-369-1166）まで。

シリーズ 堺の〇〇



金岡神社



平安時代の前期（9世紀の後半）に巨勢金岡（こせのかなおか）という日本画の太祖と言われる宮廷画家がいました。菅原道真ら当代一流の文化人と親交があり、宮廷の絵画等を制作する画所（絵所 えどころ）で障子、屏風などに画を描き伝承された作品があったそうですが、あくまで言い伝えであって真筆かどうかはわからないそうです。

金岡神社は、その巨勢金岡を祭る全国で唯一の神社で、『金岡神社 由緒略記』によると神社の所在地は、巨勢金岡の隠棲の地であったそうです。現在、「金岡淵」の名の碑文が残っていますが、神社の近くには巨勢金岡が筆洗いをした池があったという伝説があります。



絵はがき『画聖巨勢金岡旧跡』金岡神社社務所 1945年頃

明治の時代（22年）になって、この地のあった金田村が長曾根村と合併したときに、金岡神社の名をとって金岡村になったと言われています。また一方でこの地が丹南鑄物師（いもじ）の居住地で、「黒土」「日（火）置」といった鍛冶に関係の深い地名が多いことから、「金の岡」が地名の由来とする説もあります。

金岡神社には、「大道町」と刻まれた手洗水の台石があります。この名は、古代の難波（なにわ）から飛鳥までを結ぶ大道と関連するものと考えられています。発掘調査でも、近くから大きな道の遺構が出てきました。また金岡神社のそばには、「竹内（たけのうち）街道」の道標がたてられています。古代の難波大道（なにわだいでう なにわおおじ）という南北と竹内街道という東西を通る交通の要衝にこの地があったわけで、古代の都の要人や外国の使者が往来したのではないのでしょうか。



現在の金岡神社

【参考文献】

『「堺の歴史探索」地名あれこれ』堺商工会議所 1999年
『日本美術史事典』平凡社 1987年
『金岡神社由緒略記』

この本で解決！

雨の季節ですね。今回は、お天気に関して子どもから寄せられた質問をあつめてみました。

●大仙公園の池から湯気が出ていた。どうして湯気がでるのか。

水温と気温の差が大きいときにでる「蒸発霧」または「蒸気霧」といわれる現象だと思われます。『天気の不思議』（森田正光/著 誠文堂新光社）によると、暖かい水面の上に冷たい空気が流れ込むと発生し、おもに冬の朝に川の上や湖で見られるそうです。『カラー版自然と科学 霧をさぐる』（伊東俊明・深石一夫/著 岩崎書店）によると、水温と気温の差が10度以上になると発生するといわれているようです。

●「蛙がなくと雨が降る」のような動物と天気に関することわざがのっている本はあるか。

『気象予報士・蓬萊さんのへえ〜がいっぱい! クレヨン天気ずかん』（蓬萊 大介/文・絵 主婦と生活社）にはお天気に関することわざとその解説がのっています。その中に「トンビが高く飛ぶと晴れ」「セミが鳴くと梅雨が明ける」など動物に関することわざもあります。

大人向けの本では『アマツさん、ネコが顔を洗うと雨が降るって本当ですか?』（天達 武史/著 徳間書店）、『ことわざから読み解く天気予報』（南 利幸/著 日本放送出版協会）などがあります。



堺かるた - いろはの「み」

「民衆のために つくした 僧行基」

行基は668年、現在の堺市西区で生まれました。15歳で出家し、のちに、生家を寺に改め造ったのが家原寺です。

中区の土塔建立など、日本中に様々な伝説を残している行基ですが、仏教を説くとともに、ため池などの開発をすすめたり、朝廷のために働く者へ宿泊や飲食を提供する布施屋を建てたりと民衆のために尽力しました。

民衆から信頼を集めた行基は、朝廷から弾圧されることもありました。しかし、行基は布教を続け、743年、東大寺の大仏造営の勧進にも起用され、ついに朝廷から僧の最上位である大僧正に任じられました。

大仏鑄造が続く中、749年2月2日、民衆のために尽くした行基は82歳でその生涯を閉じました。



参考文献

- 『大阪春秋 第122号』新風書房
- 『むかしの堺』別所 やそじ/共著 はとぶえ会
- 『行基』堺市博物館/編集 堺市博物館
- 『行基』吉田 靖雄/著 ミネルヴァ書房
- 『行基事典』井上 薫/編 国書刊行会
- 『民衆の導者 行基 日本の名僧2』速水 侑/編 吉川弘文館
- 『土塔と行基』堺市市長公室文化部文化財課/編集 堺市
- 『行基資料集』大阪狭山市史編さん委員会/編集 大阪狭山市役所

司書のイチ押し!

「Vivian Maier: Street photographer」 Vivian Maier Power House

「男子」 梅佳代/著 「トルモア」



堺市の図書館には様々な資料があります。小説、辞書、歴史書、絵本……。そんな中に写真集も所蔵しています。今回はその写真集の中から、私が好きな2冊をご紹介します。

まず1冊目は『Vivian Maier: Street photographer』です。全編モノクロでインスタグラムのような真四角の写真作品が収録されています。Vivian Maier（ヴィヴィアンマイヤー）はアマチュア写真家として約15万点以上の写真を撮影しましたが、自ら作品を一度も世に発表しませんでした。2007年に貸し倉庫の家賃が払えなくなり手放した大量のフィルムを、別の若者が気まぐれにオークションで手に入れ、それがインターネット上で公開されると、瞬く間に世に知られることとなりました。ヴィヴィアンは2009年に83歳の生涯を終えましたが、彼女は自身の作品の評価を知ることはありませんでした。2015年にドキュメンタリー映画となって日本でも公開されています。

彼女の作品の特徴は、アマチュアながら完璧な構図とタイミングによって撮影されていることです。人々の表情を撮影しているものも多いですが、それらが全て笑顔というわけではありません。中には怪訝そうな顔や、敵意を向けている顔も見られます。しかしそんな感情のピークが納められた作品は、ユニークで、どこか温かみのある、写っているもの全てが生き生きとしたものになっています。今のデジタルカメラと違い、現像

するまでちゃんと撮れているかわからない、撮影後もパソコンで修正することができない時代で、完璧とも言える瞬間を逃さず残しています。写真に興味のない方でも、是非一度ご覧になっていただきたいです。

2冊目は梅佳代さんの『男子』です。こちらは日本の女性写真家で、ヴィヴィアンと同様にスナップ写真を得意としています。この写真集には大阪の男子小学生が納められていますが、変顔をする子、道路に寝転ぶ子……カメラを前に萎縮することなく、むしろ全力で悪ふざけをしています。パワフルな子ども達の姿は、見ていて思わずニヤッと笑ってしまうことでしょう。子ども達と写真家の関係がいいのか、みんな本当に楽しそうな表情をしています。男子ってこんな風にバカやってたなあと、見ていて肩の力が抜けて、ちょっと癒されるかもしれません。

繰り返しになりますが、図書館には様々な本があります。その中でも写真集を、何かの息抜きに一度手にとって見てください。

まだ行ったことのない世界各地の空気を感じることができたり、自分では気づいていない日常の違う視点を知る機会になるなど、新しい発見がきっとあると思います。(S・U)



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター	船松人権歴史館
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>